

資料1 事業に関連する主な長期計画等（抜粋）

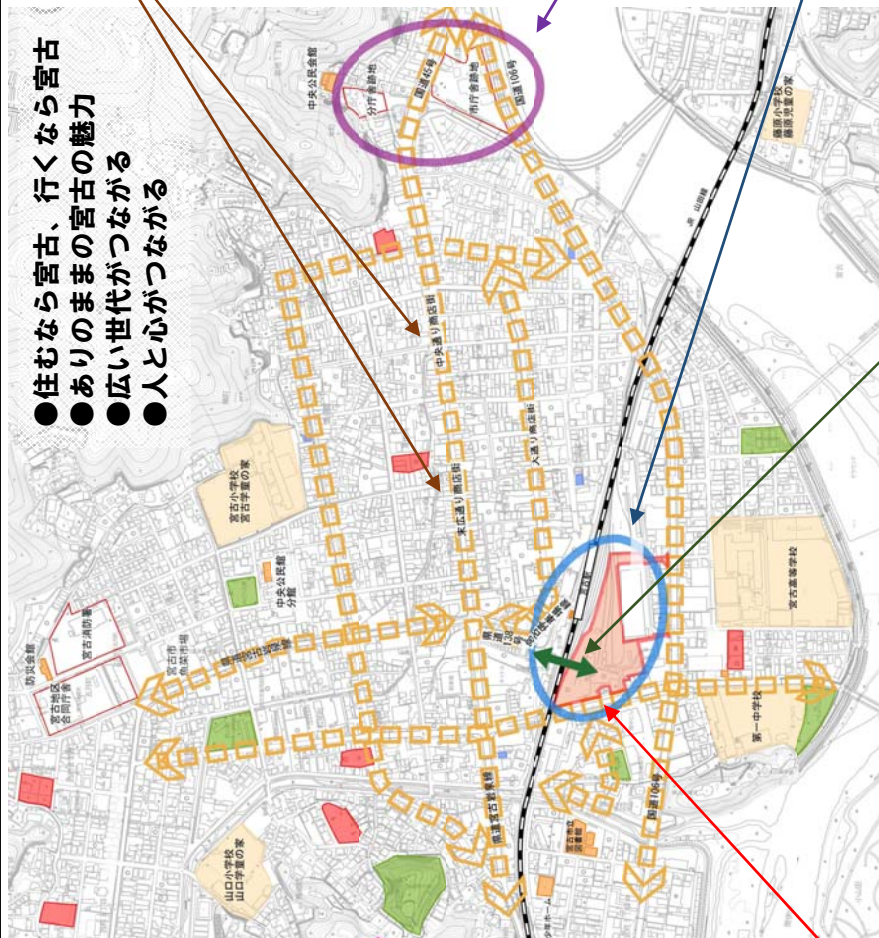
名称及び策定期間	主な内容
宮古市総合計画 ・後期基本計画（案） 【平成27年3月策定 予定】	<p>第2編 部門別計画</p> <p>第1章 三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成</p> <p>第6 賑わいのある市街地の形成（現状）</p> <p>○道路、公園、交流拠点などの都市基盤施設の整備が立ち遅れているほか、東日本大震災により、中心市街地地区周辺の公益的施設が甚大な被害を受けており、早期の復旧が必要です。また、震災復旧により、居住地区や商業施設、公益的施設などの分布が変わり、人の流れも変わるなど、コミュニティ※<sup>1</sup>機能や地域活力の維持・低下が懸念されます。</p> <p>○宮古駅の周辺においては、市街地の中心地区としての機能や広域交通の結節機能の強化が期待されています。</p> <p>○市街地においては人口の減少が進んでおり、また、自家用自動車の普及や大型小売店の郊外立地などにより空き店舗・空き地が増加しています。</p> <p>（課題）</p> <p>○被災した公益的施設を早期に復旧するとともに、津波をはじめとする大規模な災害が発生しても、必要な都市機能が維持可能な防災・災害対応の拠点となる施設の整備が必要です。</p> <p>○宮古駅周辺は交通、交流の拠点であり、市街地の中心地区でもあることから、機能性、利便性、コミュニティ性の高い公益的施設及び基盤整備が必要です。</p> <p>○市街地において便利で暮らしやすい住環境の整備とともに、安心して居住できるよう防災機能の強化が必要です。</p> <p>○市街地における回遊性を向上させるような施設の整備や取組み、商業機能の充実を図るなど、市街地に賑わいを創り出し、波及させるようなまちづくりが必要です。</p> <p>○復興まちづくり計画における各種事業※<sup>2</sup>の市街地への影響や変化を検証し、市民の意見を取り入れながらまちづくりを進めることが必要です。</p> <p>※1 コミュニティ</p> <p>住民相互の様々な分野（消費、生産、労働、教育、衛生・医療、遊び、スポーツ、芸能、祭り等）において深く結びついている集まり（社会）、地域共同体</p> <p>※2 復興まちづくり計画における各種事業</p> <p>災害公営住宅整備事業、津波復興拠点整備事業、浸水対策事業、津波避難路等整備事業</p> <p>（施策の方向）</p> <p>○中心市街地において、被災した公益的施設及び災害時等に必要な役割を担う施設を一体的に整備することにより、宮古駅周辺を中心とした一帯の拠点性、機能性、利便性を高めます。</p> <p>○復興まちづくり計画における各種事業の実施による影響や変化を検証しながら、引き続き市街地の環境整備を行います。</p> <p>【基本事業1】中心市街地の環境整備</p> <p>○JR及び三陸鉄道宮古駅南側に、防災拠点となる施設、被災した公益的施設、地域活力を創出するための施設を一体的に整備することで、市民に親しまれ、地域の主体性が発揮される中心市街地の拠点を整備します。</p> <p>（関連計画）</p> <p>①宮古市都市計画マスタープラン</p> <p>②宮古市東日本大震災地区復興まちづくり計画</p> <p>③宮古市公共交通ビジョン（H26-31）</p>

<p>宮古市新市建設計画 (変更案) 【平成16年11月策定】 【平成27年3月変更 予定】</p>	<p>第1章 序論 1 新市建設計画策定の方針 (3) 計画の期間 この計画における基本施策及び主要施策、公共施設の適正配置と整備及び財政計画は、合併後、おおむね15年間（平成17年度から平成31年度）を計画期間とします。 第4章 新市の施策（分野別施策） (1) 三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成 〔重点的な施策の体系〕市街地の整備 〔主要な事業〕事業名 中心市街地拠点施設整備事業 (8) 新しいまちにふさわしい行財政運営の推進 〔重点的な施策の体系〕行財政運営の効率化 〔主要な事業〕事業名 庁舎建設基金積立 (合併リーディング・プロジェクト、一体化先導プロジェクト)</p>
<p>宮古市都市計画マスタープラン 【平成15年3月策定】</p>	<p>(平成26年2月20日宮古市議会建設常任委員会説明資料から抜粋) 「宮古市都市計画マスタープラン」の見直しについて 1. 見直しの趣旨 都市計画マスタープランは、長期的な視点に立った都市の将来像を明確にし、その実現に向けての大きな道筋を市民に明らかにするものであり、宮古市では、平成15年3月に「宮古市都市計画マスタープラン」を策定し、「海の幸 歴史と港で 夢あふれる わがみやこ」の実現に向けて、まちづくりを推進してきたところです。 しかし、策定から10年以上が経過し、二度の市町村合併や東日本大震災からの復興、防災意識の高まりを背景に、都市づくりの目指すべき方向性として大きな分岐点を迎えています。 特に復興事業においては、市庁舎移転を伴う「一団地の津波防災拠点市街地形成施設」をはじめ、田老地区、鉾ヶ崎・光岸地地区の土地区画整理事業など、都市計画を必要とする事業が進んでいるにも関わらず、都市計画マスタープランにはその記載がないままとなっています。 このことから、これらの事業の進捗とともに、復興計画で位置付けられる『発展期』を迎え、都市の将来像を明瞭に謳い、スムーズなまちづくりを行うためにも都市計画マスタープランの見直しを始める必要があると考えます。 2. 計画の期間 計画の期間は、一般的な都市計画マスタープランの計画期間である20年間として、概ね10年後に見直しを行います。 3. 計画の基本的な考え方 宮古市都市計画マスタープランは、市の全域におけるまちづくりの方向性を検討した後、都市計画区域内における施策を示す内容とします。 また、上位計画である『宮古市総合計画』、『宮古都市計画区域マスタープラン（岩手県決定）』及び復興に関する計画である『宮古市東日本大震災復興計画』と整合を図ることを基本とします。 4. 策定スケジュール（省略）</p>

(宮古市企画課まとめ)

## 資料 2 中心市街地の活性化イメージ

- 住むなら宮古、行くなら宮古
- ありのままの宮古の魅力
- 広い世代がつながる
- 人と心がつながる



### 回遊性の向上、賑わいの創出

- ・駅・拠点施設 ⇒ 商店街 ⇒ 市庁舎跡地へとつながる、歩きたくなくなる歩行・回遊環境の強化
- ・商店街の低未利用地を活用した、滞留空間の創出（まちなかサロン、チャレンジショップ、ポケットパークなど）
- ・レンタルサイクル、駐車場・公共の利便性向上
- ・住民の集まる場所づくり
- ・飲み屋、おいしいお店、スイーツ



おでんせプラザ

### 市庁舎跡地の利活用

- ・集客、誘客性のある新たなシンボル拠点（まちの顔、元気宮古の象徴）⇒まちづくり市民会議でのアイデア整理
- アイデアの例：公園・スポーツ広場、震災資料館、商業空間・屋台、イベント・多目的ホールなど

### 宮古駅南側の新たな拠点施設

- ①防災・災害対応の体制強化
  - ②中心市街地の賑わい創出
  - ③市内各地区（拠点）との連携強化
- ・ワンストップの行政サービス
  - ・来る必要なくとも来なくなる魅力
  - ・社会人や学生が利用しやすい環境
  - ・まちづくりサポーターの育成
  - ・宮古の魅力、災害記録のガイダンス

### 自由通路

- ・駅、拠点施設、商店街のつながりに留意した、自由通路



自由通路イメージ（案）

### 情報発信の強化

- ・行政サービス、商店街、企業活動などの様々な情報の発信、交流の促進
- ・市民活動に関する情報発信、相談・サポート
- ・浄土ヶ浜、道の駅などの観光資源との連携、まちなか観光、防災観光の推進
- ・宮古らしさをいかしたおもてなし（方言、食べ物、自然環境）



観光案内所

資料5 施設利用需要調査報告書（防災・地域活力創出拠点施設）

調査の概要及び結果

1 公民館利用者アンケート調査

実施期間	平成 26 年 9 月 19 日～平成 26 年 10 月 3 日		
調査対象	中央公民館、中央公民館分館、千徳公民館、山口公民館、青少年ホーム を利用している団体・サークル 計 151 団体（延べ数：1 団体で複数施設の利用あり）		
回答数	129 団体（回答率：85.4%）		
調査内容と 主な結果	①利用室の広さの希望		
	1. 現在の部屋より広い方がよい	16.3%	
	2. 現在の部屋の広さがよい	76.0%	
	3. 狭くてもよい	6.2%	
	4. 無回答・その他	1.5%	
	②利用室の床の希望		
		文化的活動	運動的活動
	1. 素足等で利用できるフロア	37.5%	60.5%
	2. 土足利用できるフロア	18.8%	0.0%
	3. 和室	6.3%	7.9%
	4. こだわらない	31.3%	26.3%
	5. 無回答・その他	6.1%	5.3%
	③中心市街地に同様の施設ができた場合の利用見込みについて		
	1. 利用してみたい	74.4%	
	2. 利用しないと思う	7.8%	
3. どちらともいえない・わからない	17.1%		
4. 無回答・その他	0.7%		
④子ども一時預かりができた場合の活動中の利用見込みについて			
1. 利用してみたい	27.9%		
2. 利用しないと思う	24.8%		
3. どちらともいえない・わからない	34.9%		
4. 無回答・その他	12.4%		
⑤活動するうえでの希望・要望（多い順に掲載）			
・鏡面の設置/冷暖房の完備/グランドピアノの設置/コピー機の設置/黒板かホワイトボードの設置			
ほか			

## 2 音楽スタジオに関する聞き取り調査

実施期間	平成 26 年 10 月 8 日～平成 26 年 11 月 5 日			
調査対象	・ 市内の音楽スタジオ    3 店舗 ・ 音楽関係者（バンド活動・吹奏楽）    10 代～40 代・ 8 名			
調査内容と 主な結果	1．施設（市内店舗）			
		A 店	B 店	C 店
	①開館時間	12 時～24 時	14 時～24 時	～22 時
	②料金体制	1500 円/時間/1 室	800 円/2 時間/1 人	ライブ 2,500～ 3,000 円
	③面積	40 m <sup>2</sup>	66 m <sup>2</sup>	50 m <sup>2</sup>
	2．個人（新施設）			
	①利用希望			
	1．利用してみたい		6 人/8 人	
	2．どちらともいえない		1 人/8 人	
	3．利用しないと思う		1 人/8 人	
（理由）				
1 の場合：イベント前などに予約が取れない/学生は公共施設の方が入りやすい/駐車場が整備され、機材の運搬が楽/駅に近く便利				
2 の場合：ピアノを担当しているので、機材がないと利用しない				
3 の場合：学校内の練習場所で満足している。				
②希望する備品（音楽機材）				
スピーカー、アンプ、マイク、マイクスタンド、ドラムなど				
③希望するレイアウト				
北上市さくらホールのルーム 1（58 m <sup>2</sup> ）、ルーム 2（38 m <sup>2</sup> ）				
レッドホット盛岡（20～30 m <sup>2</sup> ）				

## 3 調理スタジオに関する聞き取り調査

実施期間	平成 26 年 10 月 22 日、11 月 11 日
調査対象	市内公民館等の調理スタジオを利用しているサークルの代表者 2 団体
調査内容と 主な結果	<p>①活動実態</p> <p>5 人～35 人、月 1 回程度</p> <p>②交流施設の利用希望</p> <p>どちらともいえない 2 団体／2 団体</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動頻度を増やす計画もなく、既存施設で不便が無い。</li> <li>・施設利用料が発生すると、参加者の負担となる。</li> </ul>

	<p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手芸や生け花教室でも調理室を利用できる。</li> <li>・子どもを預けられる施設があれば、参加者の幅が広がる。</li> </ul>
--	--

#### 4 子育て支援機能に関する聞き取り調査

実施期間	平成 26 年 11 月 27 日、11 月 28 日
調査対象	市職員男女（子育て中の者） 11 名
調査内容と 主な結果	<p>（内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援機能（諸室）の必要性について</li> <li>・現在の子育て環境（市内外の施設や公園など）について</li> </ul> <p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅周辺に子育て支援機能があることは、便利である。</li> <li>・必要不可欠ではないが、あれば非常に助かる。施設全体の賑わいを生むことが期待できるのではないかな。</li> <li>・利用するとしたら、ある程度の広さや機能が欲しい。また、屋外にも広場などもあれば楽しい</li> <li>・諸室を設けた場合、すくすくランド等の利用者の取り合いが少なからず発生するが、相談機能などは、キャトル内に残すべきであり、一定の利用者は、すくすくランドのような環境を好む可能性もある。</li> <li>・その他、部屋の広さや形態（オープンスペースか個室か）、設備（トイレ、授乳室など）、利用のルールなどについて意見あり。</li> </ul>

資料6 市庁舎及び行政組織の配置

■現在の配置状況

	建 築 年 度	延床面積 (㎡)	配 置 部 署
本 館 (本庁舎)	S47	5,705.30	総務企画部（総務課、企画課、復興推進課、財政課、 契約検査課、税務課） 市民生活部（総合窓口課、環境課、生活課） 保健福祉部（福祉課、介護保険課） 産業振興部（水産課） 都市整備部（建設課、建築住宅課） 危機管理監（危機管理課）※消防対策課は宮古消防署内 会計管理者（会計課） 議会事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局
別館(本庁舎)	S47	659.68	1階：車庫、2階：財政課運転技士詰所、職員休憩室等
都市整備部 第二事務所	H25	398.47	都市整備部（都市計画課）
分庁舎	S37	1,667.55	<b>産業振興部（産業支援センター、商業観光課）</b> 教育委員会事務局（教育研究所ほか）
田老庁舎	S46	2,451.00	田老総合事務所（地域振興課、住民生活課）
新里庁舎	S55	2,243.00	<b>産業振興部（農林課）</b> 新里総合事務所（地域振興課、住民生活課） <b>教育委員会事務局</b> <b>（総務課、学校教育課、生涯学習課、文化課）</b> <b>農業委員会事務局</b>
川井庁舎	S48	1,415.90	川井総合事務所（地域振興課、住民生活課）
宮古保健センタ ー仮設庁舎	H25	583.20	<b>保健福祉部（健康課）</b>
上下水道部庁舎 水道庁舎 管理本館 水質検査 センター	S63 S57 H6	709.00 934.57 504.60	上下水道部（生活排水課） 上下水道部（公営企業）（経営課、施設課）

■供用開始時の配置見込み（本庁舎）

本庁舎	総務企画部（総務課、企画課、復興推進課、財政課、契約検査課、税務課） 市民生活部（総合窓口課、環境課、生活課） 保健福祉部（福祉課、介護保険課、 <b>健康課</b> ） 産業振興部（ <b>産業支援センター、商業観光課、農林課</b> 、水産課） 都市整備部（建設課、 <b>都市計画課</b> 、建築住宅課） 危機管理監（危機管理課）※消防対策課は宮古消防署内 会計管理者（会計課） <b>教育委員会事務局（総務課、学校教育課、生涯学習課、文化課）</b> 議会事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局、 <b>農業委員会事務局</b>
-----	--

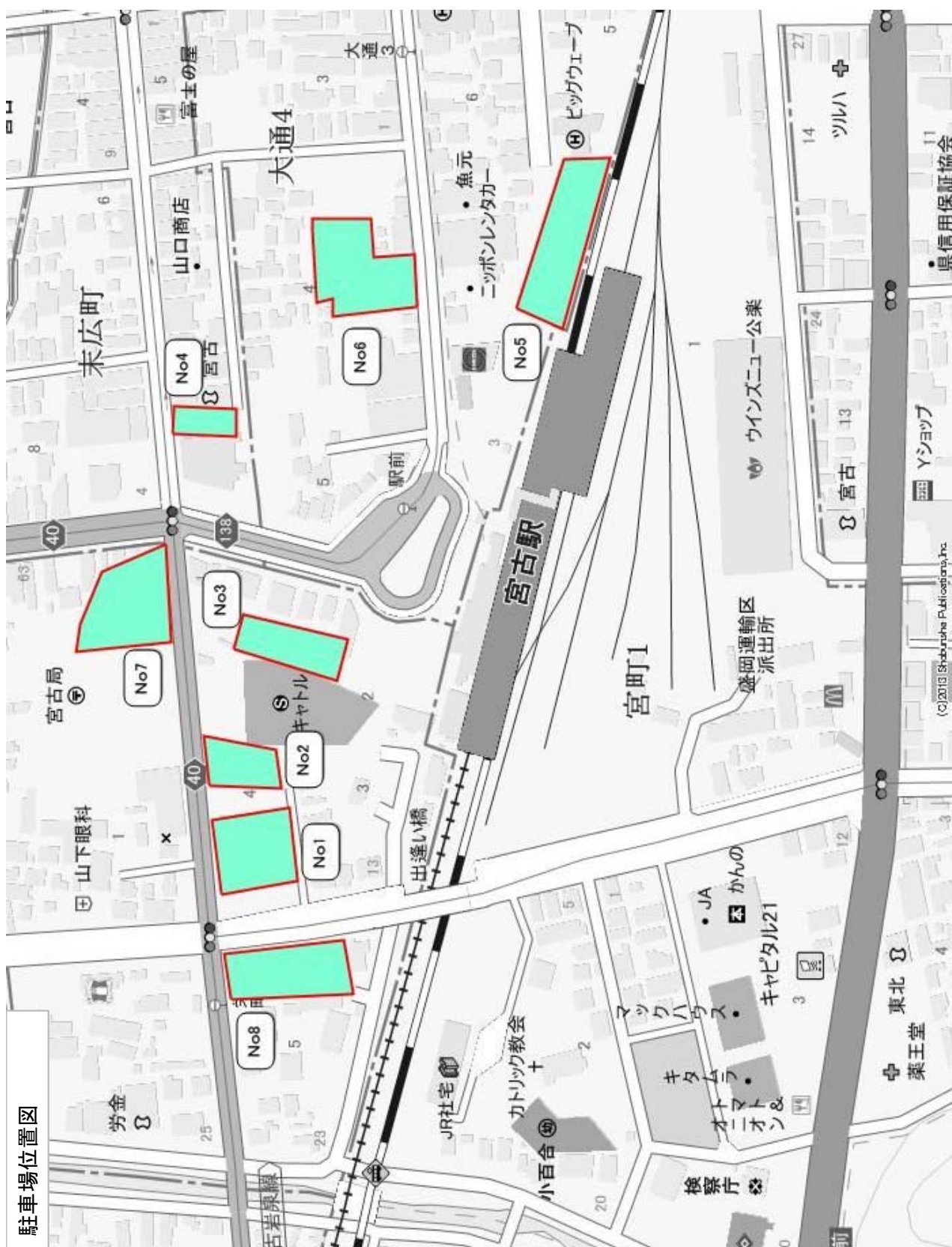
※太字は、建設時に集約を想定する部署です。

資料 7 駐車場整備に関する対応例

対応策	メリット	デメリット
①公共交通機関の利用促進と、周辺駐車場の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費を抑えられる。</li> <li>・公共交通機関の利用促進につながる。</li> <li>・敷地に余裕があれば、立体駐車場を後から整備するなどの2次的な対策が可能。</li> <li>・施設の低層化が可能。(圧迫感が抑えられ、建設費も安価。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用者が多い日(行事や税申告等が重なった場合など)に駐車区画が不足する。</li> <li>・周辺の民間施設などに無断駐車することが予測される。</li> </ul>
②立体駐車場の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピロティ構造に比べて安価に対応が可能。</li> <li>・施設の低層化が可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造物が増えるため、立体駐車場自体の維持管理が必要。</li> <li>・立体駐車場の建設費がかかる。 例:60台収容の駐車場を確保するため、1層2段の立体駐車場を整備した場合の建設費 概算 1.65億円増額</li> </ul>
③施設の高層化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭い敷地を有効に活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性の低下</li> <li>・施設の建設費が上がる。</li> <li>・低層の建物に比べて、ランドマーク性を演出できるが、圧迫感がやや大きい。</li> </ul>
④ピロティ構造の採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水対策につながる</li> <li>・災害時に、物資集配・配送場所として運用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピロティ構造にした棟が1層分、高層となり、庁舎の窓口部門もしくは交流棟のエントランス等を1階に配置できない。</li> <li>・建設費が増える。(1㎡あたり、25万円/㎡程度と試算、建築面積を2,000㎡とすると、概算で5億円増額)</li> </ul>









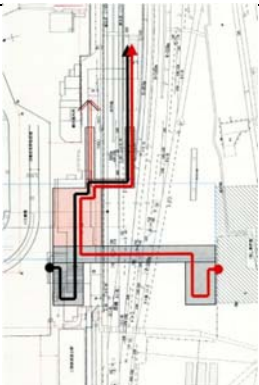
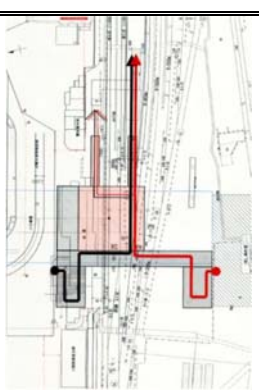




自由通路の比較検討表

資料10

H25山田線宮古駅周辺整備基本計画調査成果より

		単独通路案		橋上駅舎複合案		備 考		
		屋根なし	屋根あり	一部橋上化	全部橋上化			
イメー	全体パース							
	平面図							
コスト	イニシャル	総工事費(百万円)	680	880	1310	2150	×	
		内 鉄道創施設	190(支障移転、既存駅舎改造)		490(仮駅舎、駅舎新設)			1460(仮駅舎、駅舎新設)
		内 都市創施設	400	600	730	600		
	内 EV(ラッチ外)	90	90	90	90			
	ランニング	土木・建築	路面は屋根がないため、降雪時の対応等が必要となる。	屋根や外壁のメンテナンス費用は必要だが、降雪時等は不要	屋根や外壁のメンテナンス費用は必要だが、降雪時等は不要	屋根や外壁のメンテナンス費用は必要だが、降雪時等は不要		
		電気	照明等の設備が不要なため最も有利である。	照明等の設備が必要となるため、電気代等が発生	照明等の設備が必要となるため、電気代等が発生	照明等の設備が必要となるため、電気代等が発生	照明等の設備が必要となるため、電気代等が発生	都市創施設
鉄道とのアクセス	快適性と利便性	雨天時においては快適性に劣る。	△	○	◎	◎	◎	
		現状通り	○	○	○	◎	◎	
	駅のパリアフリー化	現状通り。1番線は良いが、2、3番線は遠い。	○	○	○	◎	◎	
		現状より	一旦北側駅前広場を迂回するため、遠回りになる。	○	○	○	◎	○
駅の顔づくり	南側より	一旦北側駅前広場を迂回するため、遠回りになる。	○	一旦北側駅前広場を迂回するため、遠回りになる。	◎	◎	◎	
	JRとの管理範囲	駅とは構造的に分離されるためすべて市管理となる	○	駅舎と連絡通路が別々となるため、一体的な顔にはならない	△	駅舎と連絡通路を一体で構成できるため、駅の顔づくりが可能となる	◎	
総合評価(案)		駅とは構造的に分離されるためすべて市管理となる	○	駅とは構造的に分離されるためすべて市管理となる	○	通路部⇒市管理、ラッチ内⇒JR管理を原則とするが、管理範囲の明確化が必要	△	
			○	○	△		△	





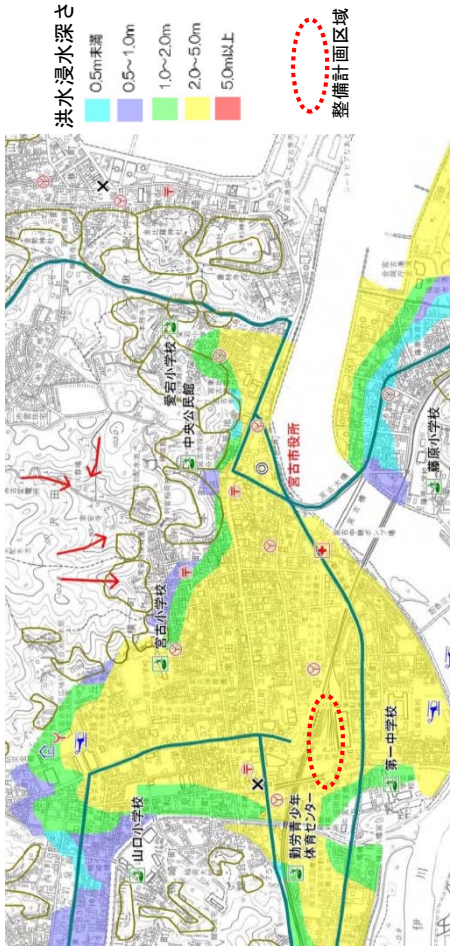


整備計画区域の浸水深について

1. 浸水深の検証について

中心市街地の多くは 100 年に 1 程度程度の大雨による洪水で『宮古市総合防災ハザードマップ』（平成 20 年 3 月全世帯配布）（以下：ハザードマップ）によると 2m から 5m の浸水が想定されています。整備計画区域において、ハザードマップで想定されている浸水深をより具体的に検証するためハザードマップのほか市内に基大な被害を与えたアイオン台風（昭和 23 年 9 月）の被害状況をまとめた文献<sup>※</sup>や当時の痕跡を記した市内各所の浸水標識から浸水深を算定しました。

※（駒井雅三 著 伸びゆく宮古ーアイオン台風から（昭和 41 年刊））



【図—1：宮古市総合ハザードマップ（土砂・洪水編）】

2. 検証の方法と手順

① 整備計画区域の浸水深の算定

ハザードマップで示された浸水の深さ 2m から 5m の範囲で最低の標高となる地点を抽出し、その地点が最大の浸水深 5m になると仮定した場合、整備計画区域ではどの程度の浸水深になるのかを算定します。

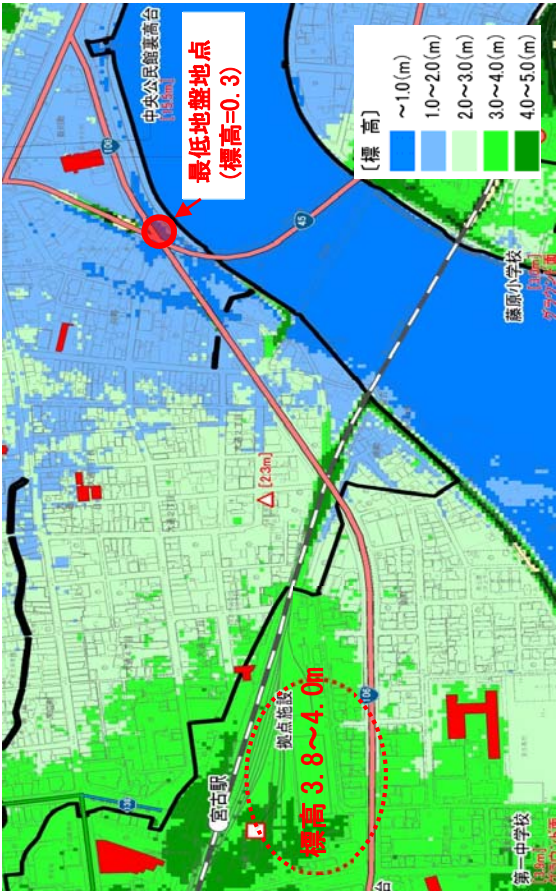
② アイオン台風時の浸水高からみた想定浸水深の妥当性を検証

算定した浸水深について、アイオン台風時の浸水深の痕跡等から妥当性について検証します。

3. 検証結果

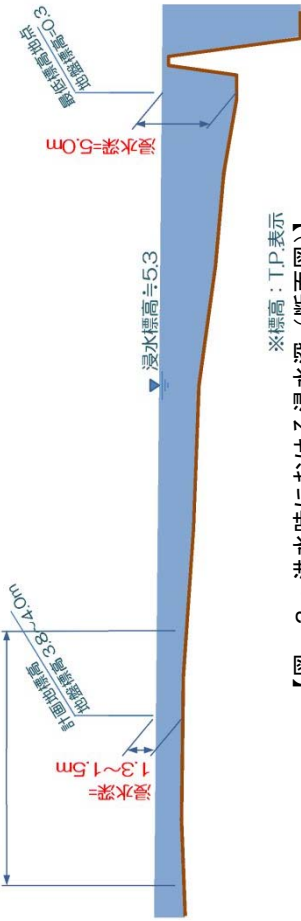
① 整備計画区域の浸水深の算定

- ・洪水時における浸水標高＝最低地盤地点における標高（TP=0.3）＋ハザードマップにおける最大浸水深（5.0m）＝5.3m
- ・浸水標高 5.3m とした場合、整備計画区域の浸水深は 1.3～1.5m となります。



※地形データは、震災復興計画基本図（迅速図）を使用。

【図—2：最低地盤地点の標高】



※標高：T.P.表示

【図—3：洪水時における浸水深（断面図）】





■資料12\_水害対策比較検討表

一般に①②③出入口での止水対策、④⑤フロアレベルの嵩上げ、その他ガラス補強での止水対策がある

検討項目	①防水シャッター	②止水板	③防水シート	④地盤の嵩上げ	⑤建物基礎立上げ	⑥1階外壁窓範囲をガラス補強する(FIX強化合せガラス仕様)
主要設置場所	出入口(設置対象幅:4.0m) (1棟につき3ヶ所とする)	出入口(設置対象幅:4.0m) (1棟につき3ヶ所とする)	出入口(設置対象幅:4.0m) (1棟につき3ヶ所とする)	建築面積範囲	建築面積範囲	外壁窓範囲
概要	 <p>(三和シャッター工業:使用時のイメージ) ・防水機能をもつパネル式シャッターでの対策</p>	 <p>(福岡市博多区役所) 支柱にパネルを差込んで簡単に組み立てられる止水板での対策</p>	 <p>(福岡市営地下鉄天神駅) 防水シートを浸水高さまで装着することでの対策</p>	 <p>地盤自体を浸水高さまで嵩上げることでの対策</p>	 <p>基礎躯体を浸水高さまで立上げることでの対策</p>	 <p>外部開口部窓の硝子を浸水高さまで強度検討し厚くすることでの対策(10mm+10mm)等</p>
設置可能範囲	開口寸法 W1.5~5.0m内外	w2.0m(連装可能)	w2.5m	-	-	-
止水高さ	2.0m(水没不可)	0.3~1.5m	1.5m	-	-	1.5m
設置時間の目安	1人で 約2分(電動)	1~2人で 5~10分(手動)	1人で 5~10分(手動)	-	-	-
長所	・浸水高さ2mまで対応可能である ・開閉速度3.1m/分と電動なので設置の手間が要らない	・首都圏地下鉄上屋出入口の設置等、事例が多く、伝統的な対策である。	・操作性が良い ・イニシャルコストが相対的に安い	・設置手間が要らない ・イニシャルコストが最も安い	・設置手間が要らない	・設置手間が要らない
短所	・イニシャルコストは最も高い	・設置に人数が必要である ・収納スペースが必要である ・イニシャルコストは高い	・浸水深1.5mを超える高さには対応できない	・隣接する鉄道との協議や技術的制約条件との整合が必要になる	・イニシャルコストは高い ・出入口に段差ができ、約30mのスロープが必要になる	・イニシャルコストは高い
単価/部材寸法	1出入口当り1600万円 W2.0×H2.5(2枚分)	1出入口当り1250万円 W0.4×H1.6(10枚分)	1出入口当り720万円 W2.5×H1.5(2枚分)	建築面積1m3当り0.5万円 地盤嵩上げ1.5m	基礎体積1m3当り4.0万円 基礎立上げGL+1.5m(梁成2.5m)	1枚当り90万円 W2.0×H1.5(1枚分)
対策費(浸水深:1.5m)	約9600万円	約7500万円	約4300万円	約2300万円	約6600万円	約7200万円

※対策費は(概算)は、次の設定を目安に算出する。①建築面積は 約3,000㎡ ②出入口 6ヶ所×4.0m ③建物周長 約320m(周長の1/2を窓範囲:fix窓80枚分) ④基礎立上げ躯体数量 約1650m3



### 1. 交通処理調査の目的

新施設予定地への交通処理は、主に国道106号からとなりますが、国道106号の現状をみると、朝夕に一時的な渋滞がみられます。



■ 国道 106 号マクドナルド前



■ 国道 106 号ツルハドラッグ前



■ 出合い橋の JA 前

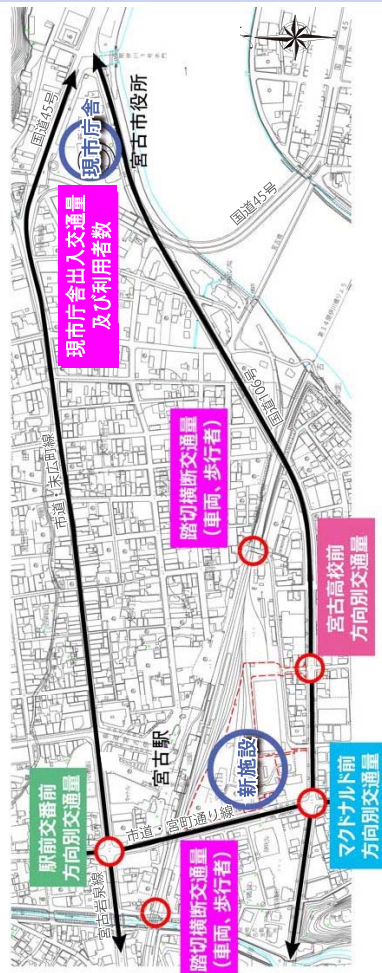
現市庁舎も国道 106 号を利用した交通がみられますが、新施設においては、交流センターなど新たな機能の導入なども予想され、交通渋滞が高まることが予想されます。

このことから、本調査は新施設周辺の主要交差点の交通量の現状を把握するとともに、新施設完成後の交通量の推計を行い、主要交差点において、その影響度の予測・評価を目的とするものです。

また、現市庁舎への出入交通量及び利用者数、新施設周辺の踏切横断交通量（車両、歩行者）の調査も実施し、新施設建設に伴う交通処理の検討資料として活用しました。

### 2. 交通処理検証のための調査

以下の地点で、主要交差点の方向別交通量や現市庁舎への出入交通量、踏切横断交通量の調査を実施しました。



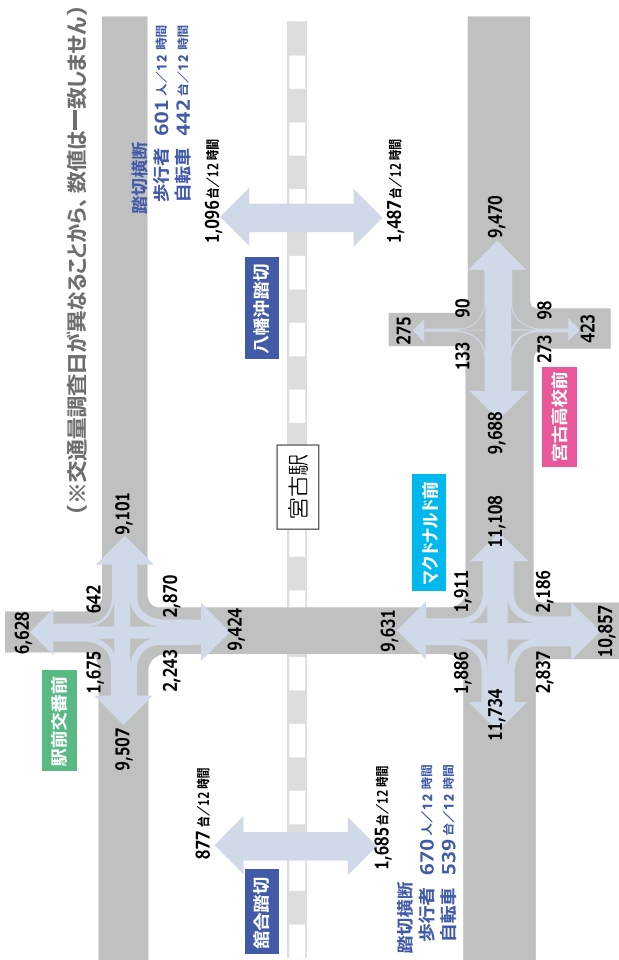
◆ 実施日（調査時間 7:00 ~ 19:00）

- ・ マクドナルド前、宮古高校前 平成 25 年 1 月 23 日（木）晴れ
- ・ 駅前交番前、現市庁舎、踏切 平成 26 年 10 月 29 日（木）晴れ

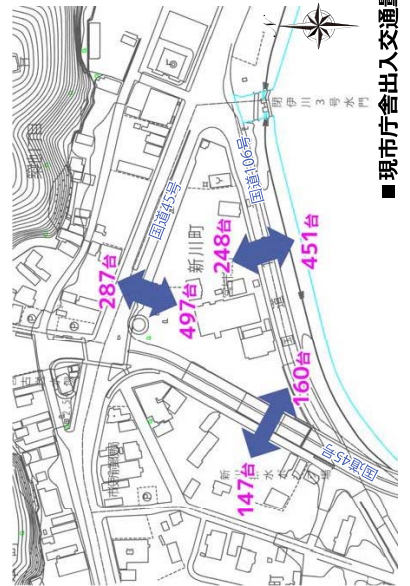
### 3. 調査結果

主要交差点及び踏切横断交通量の 12 時間調査を行ったところ、下図のような結果となりました。国道 106 号は約 10,000（台／12 時間）・駅前交番前付近の宮古岩泉線は約 9,500（台／12 時間）の交通量があり、道路容量以上の交通量の集中や右折車両による渋滞などの要因により、朝夕に一時的な滞留が見られました。

また、踏切横断交通量は、八幡沖踏切 2,583（台／12 時間）、歩行者は 601（人／12 時間）、館合踏切 2,562（台／12 時間）、歩行者は 670（人／12 時間）でした。



また、現市庁舎への出入交通量は約 1,700（台／12 時間）ありました。国道 45 号側からは、宮古岩泉線との交差点からの近接性や短い右折車線長等の制約があります。多くの交通が進入します。しかし、多くの車両は比較の出やすい国道 106 号側の出口を利用していただくことができます。



■ 現市庁舎出入交通量



4. 新施設への出入交通量の見込み

新施設に配置する施設に対する出入交通量を推計すると、1日当たり約 2,400 台の交通量が発生します。なお、市庁舎の出入交通量は現市庁舎の出入交通量とし、他の施設は「大規模開発地区区関連交通計画マニュアル・改訂版（平成26年6月）」に基づいて推計しました。

施設名	発生集中台数 (台/日)		ピーク時 (台/h)	
	平日	休日	平日	休日
防災センター		132		15
市庁舎		1,790		205
交流センター		96		11
保健センター		169		113
多目的ホール		203		23
その他会議・研修等		469		147
小計		28		3
荷捌き関連車両(大型車)		2,419		370
合計		2,419		121

新施設に出入する交通量が、周辺交差点に与える影響について2つのケースを想定して検証しました。  
交差点への影響度は、1日の中で最も交通量が多くなる1時間交通量を抽出(本調査では17:00～18:00)して、交通解析において一般的に行われている「交差点需要率」で評価しました。

【交差点需要率】  
単位時間内に交差点が信号で処理できる交通量に対し、実際に流入する交通量の比率で表すものです。値が高くなるほど交差点の混雑が見込まれ、一般的に0.8ぐらいで部分的に渋滞が発生し、0.9を超えると信号が一巡しても車をさばききれなくなるといわれています。

【ケース1 現況】

○現在の交差点状況に基づいて算定しました。

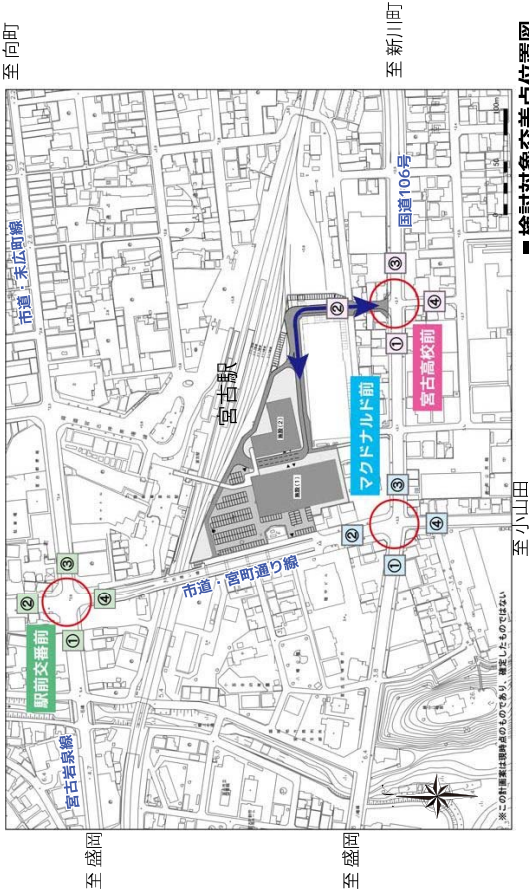
【ケース2 計画案】

○現在基本となっている計画案に基づいて算定しました。  
○宮古高校前交差点には、右折レーンの設置と信号処理を前提としました。

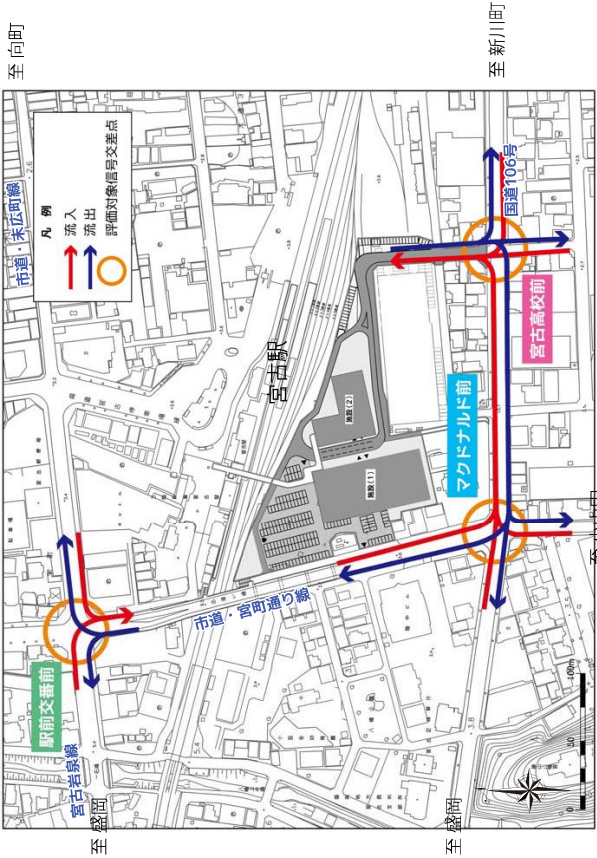
5. 交通処理の検証

(1)影響検討交差点  
検証を行う交差点は以下の3ヶ所としました。

- 宮古高校前交差点
- マクドナルド前交差点
- 駅前交番前交差点



■検討対象交差点位置図



■アクセス動線図：計画案(ケース2)

(2)検証結果

現況の交差点交通量に、開発地からの出入り交通量を加算しても、交差点需要率は0.9を下回り適正な水準値を示しています。なお、右折交通に着目すると、現在一時的な混雑が発生している『マクドナルド前』、『駅前交番前』では1サイクルあたり1台程度の負荷であり、元々右折車線があることから交差点へ及ぼす影響は軽微であると想定されます。また、『宮古高校前』は1サイクルあたり2台～3台程度であり、元々右折交通が少なく、新たに右折車線を整備することから、新施設による影響は軽微であると想定しております。

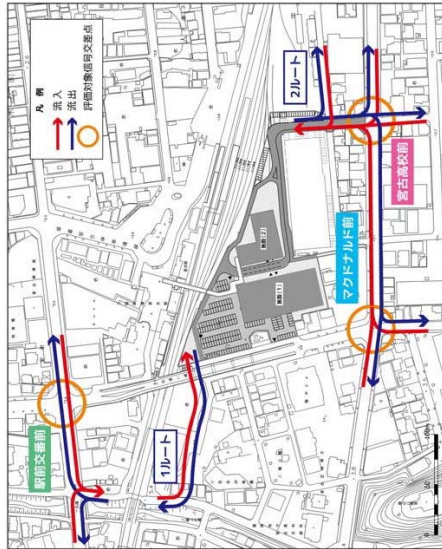
	宮古高校前		マクドナルド前		駅前交番前	
	現況	計画案	現況	計画案	現況	計画案
ピーク時交通量 (17:00～18:00)						
交差点需要率	0.282(<0.900)	0.381(<0.900)	0.457(<0.900)	0.486(<0.900)	0.438(<0.900)	0.476(<0.900)
1サイクル当たりの 平均右折車両台数 (台/サイクル)	0.3	0.3	3.9	3.9	3.5	4.2
0.0 1.5台以上増加 0.0 1.5台未満増加	0.1	2.9	2.5	2.5	3.5	3.5
※信号の1サイクル：一つの信号灯が、 青⇒黄⇒赤と一巡することを言います。	0.0	1.7	2.3	3.7	0.2	0.2
	0.1	0.1	2.1	2.6	6.2	7.2

●色の数字は、現況交通量に対して、新施設建設に伴って増加する方向別交通量を示しています。

参 考

別のアクセスルートを設定した場合の検証結果

【ケース3 複数出入案(2ルート)】



■アクセス動線図：複数出入案(ケース3)

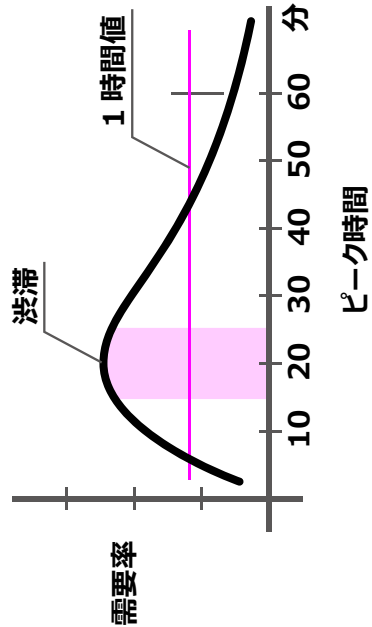
	宮古高校前		マクドナルド前		駅前交番前	
	現況	複数出入案	現況	複数出入案	現況	複数出入案
ピーク時交通量 (17:00～18:00)						
交差点需要率	0.282(<0.900)	0.347(<0.900)	0.457(<0.900)	0.478(<0.900)	0.438(<0.900)	0.454(<0.900)
1サイクル当たりの 平均右折車両台数 (台/サイクル)	0.3	0.3	3.9	3.9	3.5	3.5
0.0 1.5台以上増加 0.0 1.5台未満増加	0.1	1.5	2.5	2.5	3.5	3.5
	0.0	1.6	2.3	2.3	0.2	0.2
	0.1	0.1	2.1	2.6	6.2	6.2

●色の数字は、現況交通量に対して、新施設建設に伴って増加する方向別交通量を示しています。

## 6. まとめ

①新施設の供用開始により、宮古高校前の交差点でピーク時に67～111台／時の増加がみられ、その他の交差点では、22台／時～56台／時の増加が見込まれます。なお、現況交通量には現本庁舎利用交通量も含まれています。

②主要交差点においては、現在も一時的な渋滞が発生しており、交差点需要率による評価と異なる点がありますが、交差点需要率はピークの1時間で評価しており、渋滞の発生時間帯が1時間に満たないために平準化された数値となっていることが考えられます。



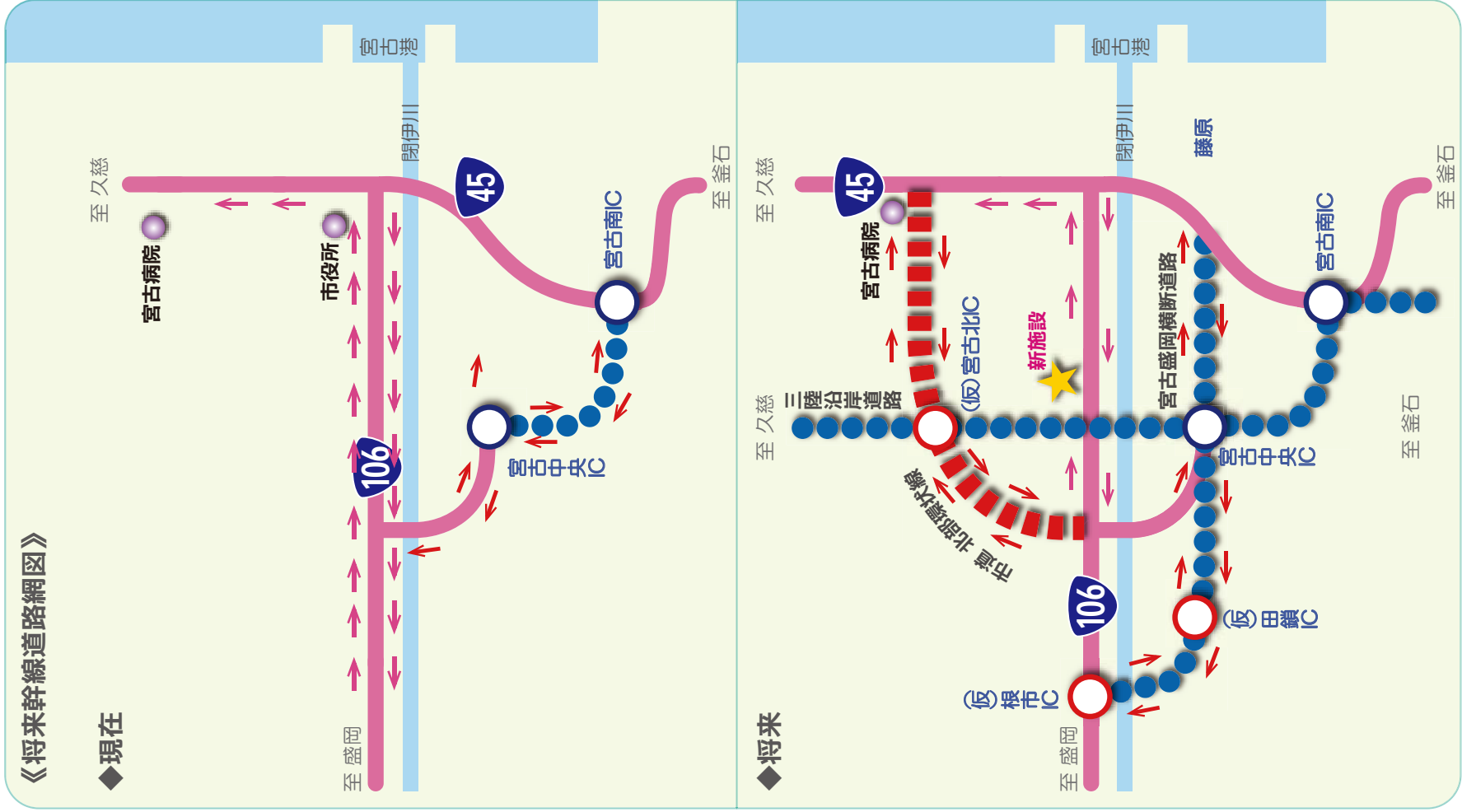
③平常利用時の新施設へのアクセス検討案で周辺の交差点に大きく影響することはありません。別のルートを立てて比較してみると、現計画案に対して若干の改善はみられましたが、館合踏切から新施設に至るルートについては、その整備費に見合うほどの効果はありませんでした。また、市道八幡沖鉄道踏切については、中心商業地からアクセスが比較的容易なことからその整備について、引き続き検討を深めていきます。

④拠点エリアの交通量推計によれば、東側のメインルート及び宮古高校前交差点での交通処理において十分に対応可能な数値と言えます。ただし、災害時における緊急車両等の流入や、平常時の公用車及びバックヤードへの業務用車両の流入が、施設利用の一般利用車両と交錯しないよう、メインルート以外にもアクセス路を確保しておく必要があります。また、災害時に活用できる可能性がある民地の活用についても、災害協定を締結するなどの方法により活用方法の検討を進めていく必要があります。

⑤現状において、国道106号などで朝夕に一時的な滞留が発生しており、ピーク時渋滞長は450mにもなります。調査結果からは渋滞原因として右折車が原因とは言えず、歩行者との干渉、復興関連工事による大型車の混在、交差点形状ほか自然渋滞の可能性が高いと言えます。この渋滞に関する問題は、拠点整備とは別の課題として捉える必要があります。通過交通量については、今後、宮古市周辺の広域道路ネットワークが整備されることにより、大きな改善が予想されます。

## 参考

今後、北部環状線・三陸沿岸道路・宮古盛岡横断道路開通後においては、市街地内への通過交通等が減少するなどの要因から、国道106号のマクドナルド前交差点交通量も減少するなど、市街地内交通の円滑化が見込まれます。





# 宮古市中心市街地拠点施設整備事業に係る市民アンケート調査報告書＜概要版＞

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

調査は、平成26年度に予定している宮古市中心市街地拠点施設整備事業の基本計画の策定にあたっての基礎資料とするため、市役所の利用実態や利用に関する市民の満足度及びニーズを把握することを目的として実施するものである。

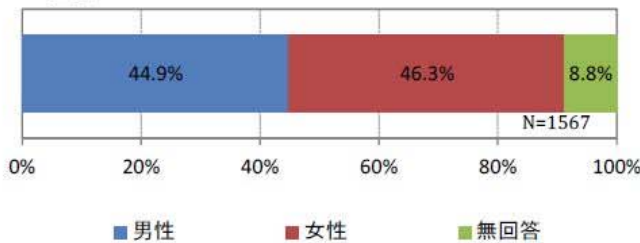
### (2) 調査概要

実施期間	平成26年8月15日（金）～8月31日（日） （FAX・窓口提出は、平成26年9月1日（月）着分まで）
調査方法	調査票は、「広報みやこ（平成26年8月15日号）」で全世帯配布。 回収は、郵送・FAX・窓口提出のいずれか。
調査対象	①全世帯（8月1日現在：24,261世帯）②来庁者（本庁舎、総合事務所・出張所の住民窓口）
回収数（率）	①1,056人（世帯、4.35%） ②511人 合計 1,567人

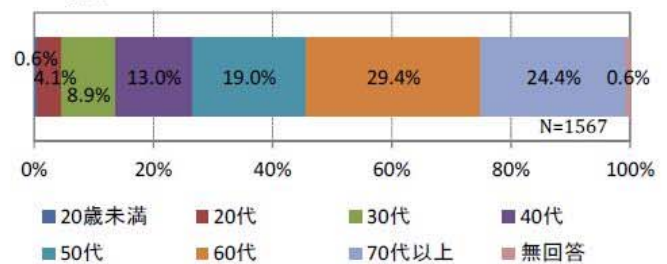
## 2. 調査結果

### (1) 回答者の属性

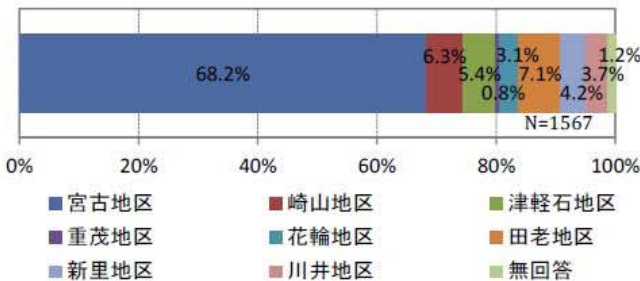
#### ■性別



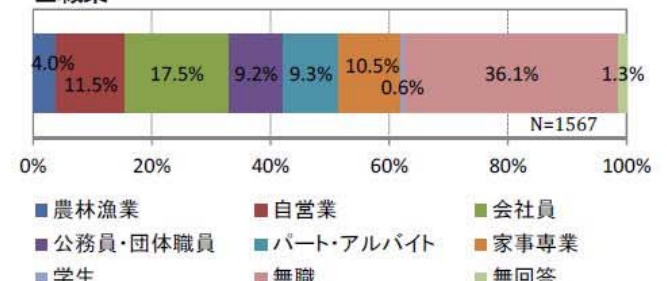
#### ■年齢



#### ■住まい



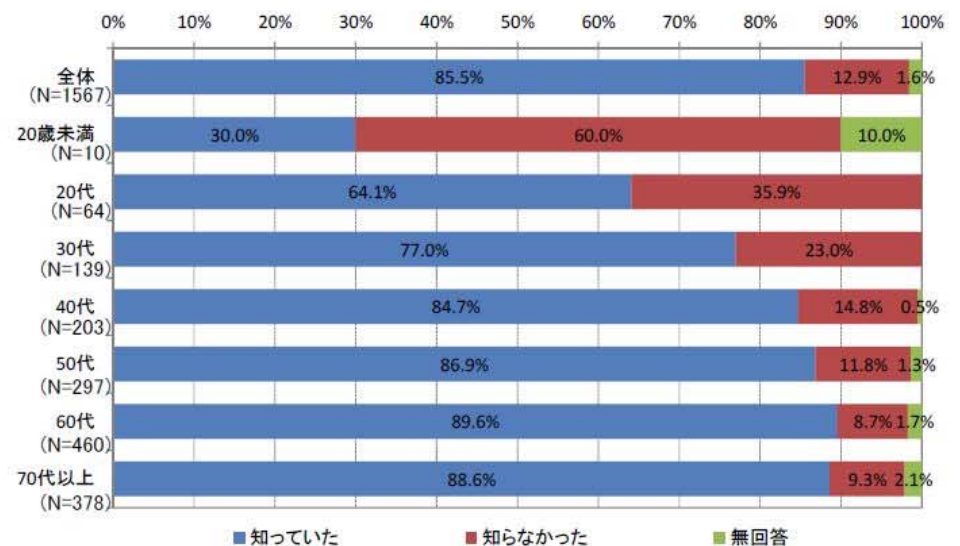
#### ■職業



### (2) 整備計画の認知度

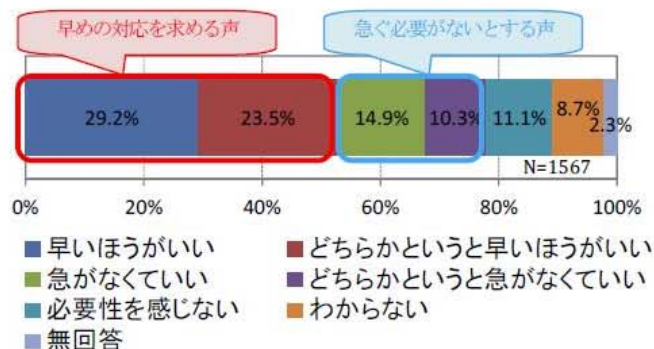
○「知っていた」と答えた人が85.5%となっており、整備計画に関する認知度は高い。

○おおよその傾向として、年代が高くなるにつれて、認知度は高くなっている。



### (3) 拠点施設の整備について

○「早いほうがいい」と答えた人の割合が29.2%、「どちらかという早いほうがいい」と答えた人の割合が23.5%と、早めの対応を求める声が5割(52.7%)を超えている。また、「急がなくていい」「どちらかという急がなくていい」と答えた人は25.2%、「必要性を感じない」と答えた人は11.1%となっている。

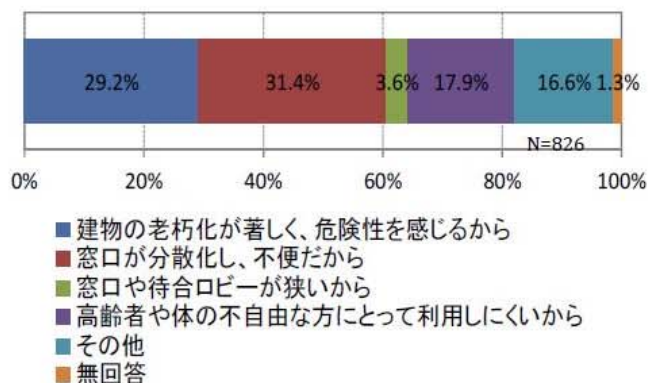


### (4) 早めの対応を求める理由について

○早めの対応を求める826人(52.7%)のうち、理由として「窓口が分散化し、不便だから」と答えた人の割合が31.4%と最も高く、次いで、「建物の老朽化が著しく、危険性を感じるから」と答えた人が29.2%となっている。

○「その他」としては、「駅から近く交通の便が良い方がよい」「現庁舎は海に近く危険を感じるので早く安全な場所に整備してほしい」等の意見が見られた。

#### ■早めの対応を求める理由

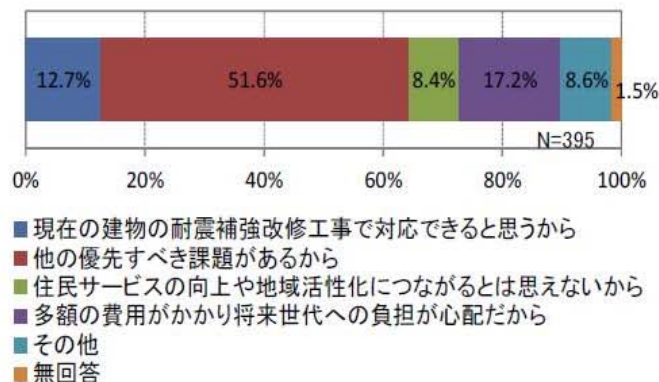


### (5) 急ぐ必要がないとする理由について

○「急がなくていい」と答えた395人(25.2%)のうち、理由として「他の優先すべき課題があるから」と答えた人の割合が51.6%と最も高く、次いで、「多額の費用がかかり将来世代への負担が心配だから」と答えた人が17.2%となっている。

○「その他」としては、「もっと時間をかけて議論してほしい」等の意見が見られた。

#### ■急ぐ必要がないとする理由

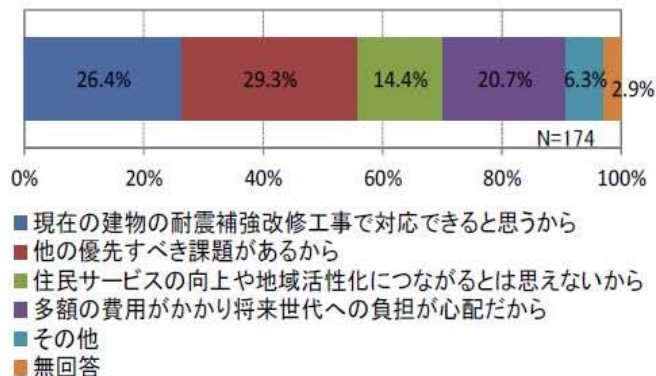


### (6) 必要性を感じないとする理由について

○「必要性を感じない」と答えた174人(11.1%)のうち、理由として「他の優先すべき課題があるから」と答えた人の割合が29.3%と最も高く、次いで、「現在の建物の耐震補強改修工事で対応できると思うから」と答えた人が26.4%となっている。

○「その他」としては、「移動する場所が良くないと思うから」等の意見が見られた。

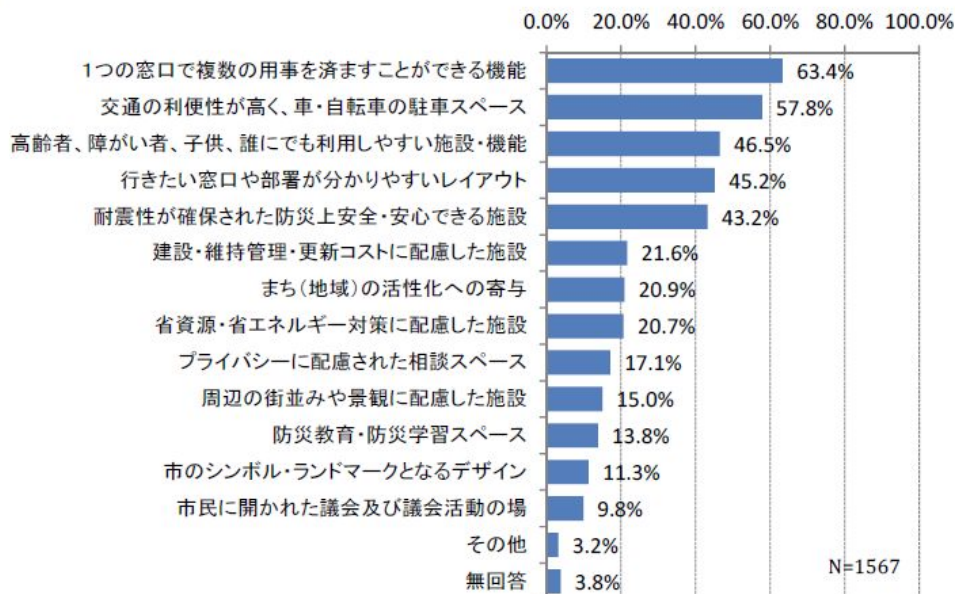
#### ■必要性を感じないとする理由





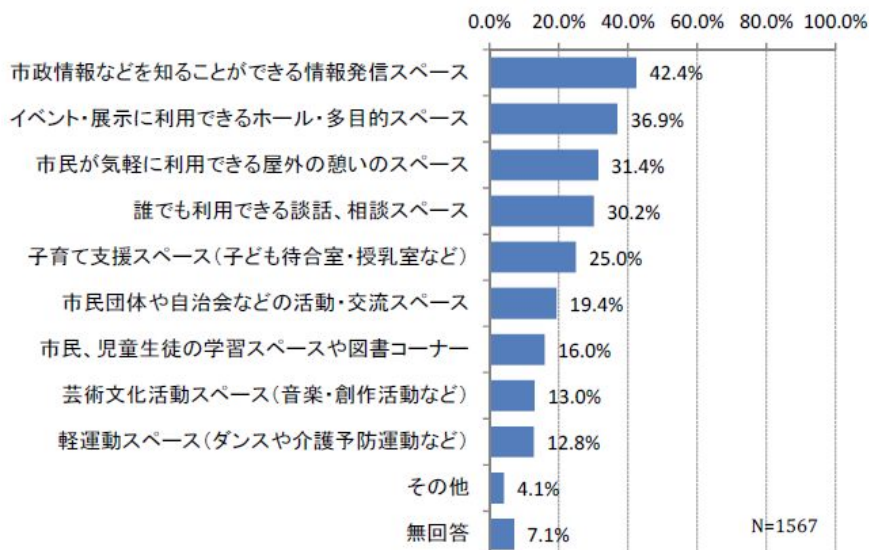
### (7) 拠点施設の整備で重要視すること

- 拠点施設の整備では、「1つの窓口で複数の用事を済ませることができる機能」を重要視すると答えた人の割合が63.4%と最も高く、次いで、「交通の利便性が高く、車・自転車の駐車スペース」と答えた人が57.8%、「高齢者、障がい者、子供、誰にでも利用しやすい施設・機能」と答えた人の割合が46.5%と続いている。
- 「その他」としては、「駅との一体化・コンパクトシティの確立」「窓口サービスの向上」「避難場所の確保」他、「必要がない、現状で十分」「仮設の早期解消が先」等の意見が見られた。
- 年齢別にみると、「20歳未満」「20代」を除いたいずれの年代においても、重要視する項目として「1つの窓口で複数の用事を済ませることができる機能」を挙げている人の割合が最も高い。
- 地区別にみると、「新里地区」、「川井地区」で、「交通の利便性が高く、車・自転車の駐車スペース」を挙げている人の割合が最も高い他は、すべての地区で、「1つの窓口で複数の用事を済ませることができる機能」を重要視すると答えた人が最も高い。



### (8) 拠点施設を整備する上で必要な新たな施設（機能）

- 拠点施設の整備では、「市政情報などを知ることができる情報発信スペース」を必要な新たな施設（機能）と答えた人の割合が42.4%と最も高く、次いで、「イベント・展示に利用できるホール・多目的スペース」と答えた人が36.9%、「市民が気軽に利用できる屋外の憩いのスペース」と答えた人が31.4%となっている。
- 「その他」としては、「必要最小限にすべき」という意見が見られた。
- 年齢別にみると、「20代」「30代」では、「子育て支援スペース（子ども待合室・授乳室など）」を挙げている人の割合が最も高く、40代以降では、「市政情報などを知ることができる情報発信スペース」を挙げている人の割合が最も高い。
- 地区別にみると、「重茂地区」で、「子育て支援スペース（子ども待合室・授乳室など）」を挙げている人の割合が最も高い他は、すべての地区で、「市政情報などを知ることができる情報発信スペース」を必要な新しい施設（機能）として挙げた人の割合が最も高い。

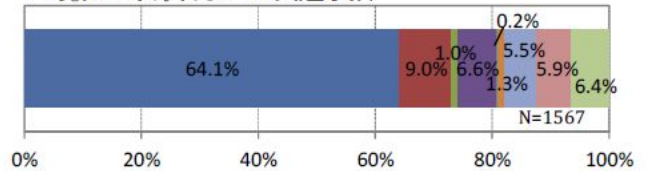




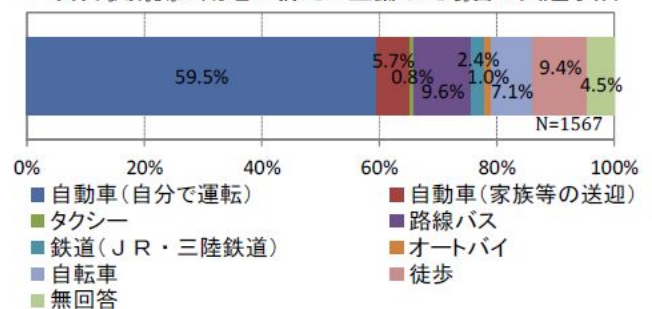
## (9) 交通手段

- 現在の本庁舎までの交通手段は、「自動車（自分で運転）」の割合が 64.1%と最も高く、「自動車（家族等の送迎）」(9.0%) を含めると 7 割以上 (73.1%) が自動車を使用している。
- 宮古駅南側の用地に整備した場合も、「自動車（自分で運転）」の割合が 59.5%と最も高く、「自動車（家族等の送迎）」(5.7%) を含めると 6 割以上 (65.2%) が自動車を使用すると答えている。
- 「公共交通（鉄道・バス・タクシー）」の割合は、現在の交通手段としている人が 7.8%、新たに宮古駅南側に施設を整備した場合は、12.8%となっている。

■現在の本庁舎までの交通手段



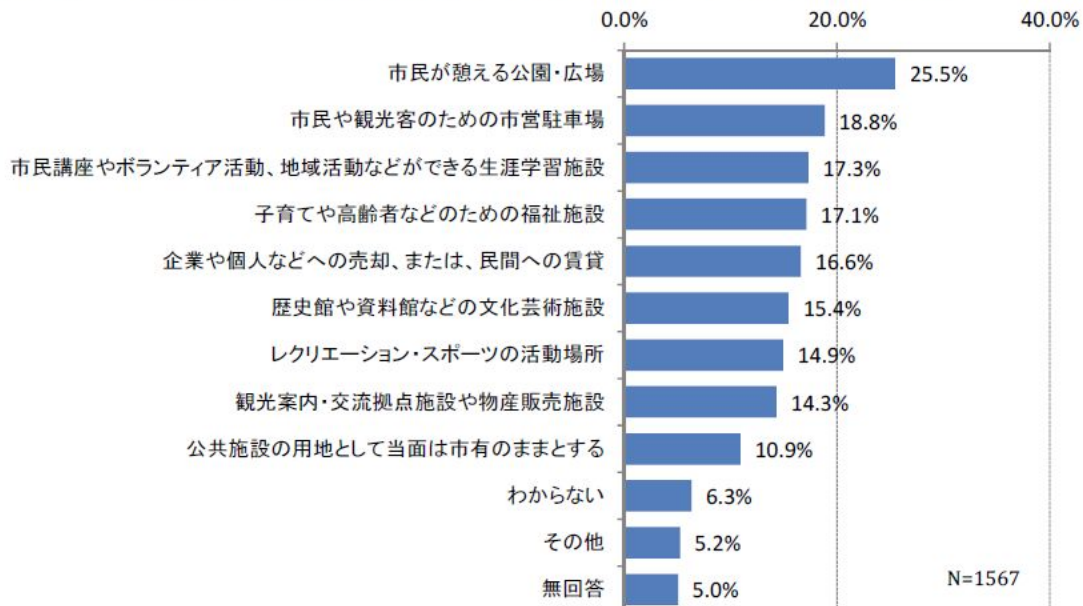
■宮古駅南側の用地に新たに整備した場合の交通手段



## (10) 拠点施設を整備し本庁舎や分庁舎を解体する場合の用地活用について

- 「市民が憩える公園・広場」と答えた人の割合が 25.5%と最も高く、次いで、「市民や観光客のための市営駐車場」と答えた人が 18.8%となっている。ただし、その他いずれの回答にも大差はない。
- 「その他」としては、「津波避難ビルとして残すべき」「道の駅とする」等の意見が見られた。
- 年齢別にみると、「市民が憩える公園・広場」はいずれの年代でも上位 3 項目に入っている。

(複数回答)



## (11) 拠点施設の整備についての意見・提案

- 「現状のままでよい、他に優先するものがある」という意見が 72 人と最も多く、次いで、「市民へ広報や説明する機会を増やし、十分に議論をして決めてほしい」が 35 人、「駐車スペースを充実させてほしい」が 34 人、「渋滞対策などを考えて道路の整備もしてほしい」が 33 人、「防災に力を入れてほしい」が 30 人と続いている。

	回答数
現状のままでよい、他に優先するものがある	72
市民へ広報や説明する機会を増やし、十分に議論して決めてほしい	35
駐車スペースを充実させてほしい	34
渋滞対策などを考えて道路の整備もしてほしい	33
防災に力を入れてほしい	30
市役所等の移転について賛成。早期完成を期待している	26
地域活性化、人口流出を防ぐ対策が必要	26
施設のデザインや機能面を工夫したものにしてほしい	22
公共交通を充実させてほしい	19
財政面に配慮して整備に多額の費用はかけないでほしい	18
公園や運動施設を作ってほしい	18
パチンコ店の近くは景観上良くない。店を移動してほしい	17
拠点施設の集約などを行い、利用しやすくしてほしい	17
子育てや高齢者や障がい者に配慮した施設にしてほしい	17
移転先を宮古駅南側以外の場所にしてほしい	14
市役所と駅の間に通路を作るなど、駅と繋げてほしい	13
拠点施設を集約しなくてよい。遠方の施設も充実させてほしい	8
アンケートの質問自体に疑問がある	7
歴史館や資料館などの文化芸術施設を作ってほしい	4
その他	97

N=527